

# JARL全世界10,000局アワード

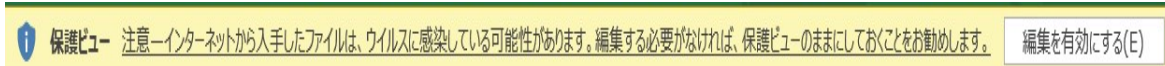
by JA7FKF

2025/6/29 Ver.1.1

2025/12/13 Ver.1.3

2025/12/24 Ver.1.4

ファイルをダウンロード後、最初開いたとき次の警告が表示されます。



「編集を有効にする (E)」をクリックしてください。

このEXCELブックは、JARL全世界10,000局アワード(以下、世界10000局賞)の申請をより簡単に申請できるようにしたものです。

JARLのホームページに、申請様式のEXCELブックがありますが、手作業で記入するための物で、EXCELの機能を利用するには使い勝手が悪いものです。

そのため、交信局リストのデータの間に1件のデータを挿入したり、1件のデータを削除などを行った場合、交信局リストを全面的に書き換えなければならない事態に陥る可能性があります。

せっかくEXCELを利用しているのですから、その素晴らしい機能を活用しましょう。

このようなデータ入力セルの配置が複雑な場合は、印刷様式シートとデータ入力シートに分ければ、データ入力作業は省力化できます。

このEXCELブックでは、データを入力すべきセルの設定、IMEコントロール等を利用しできるだけ間違いのないようなデータ入力ができるようにしています。

また、各セルにデータを入力後「Tab」キーを押せば、次の入力セルにフォーカスが移動しますので無駄なキー操作を削減できます。

さらには、マクロ機能を利用しデータの重複チェックなどをしておりますのでより正確なデータ入力ができ

さらに追加すると

世界10000局賞申請しようとする方は、何らかのログアプリを使用していることと思います。

このログアプリのデータを利用しない手はありません。

ログデータをEXCEL、ACCESSを利用し必要なデータを抽出し、そのデータをこのEXCELブックに貼り付けるだけで申請書を完成できます。

このブックは、Microsoft Office Professional Plus 2019で作成しています。

## 1. 全体

シート構成は、次のようになっています。左側は申請様式、右側がデータ入力のシートです。

### 印刷様式シート

全世界アワード申請書

交信局リスト

ARRLエンティティリスト

ITUゾーン・大陸リスト

参考資料

### データ入力シート

なし

QsoData

Entity

Zone\_Continent

なし

各シートは、シート保護をしています。パスワードは、設定していません。

データ入力するセルは、保護を解除しています。

データ入力するセルにデータを入力した後、「Tab」キーを押すと次の入力セルにフォーカスが移動します。

「Shift」+「Tab」で逆方向に移動します。

データ入力するセルによってIMEをコントロールしています。

データ入力シートにデータを入力すると、その値が印刷様式シートに反映されます。

データ入力するシートのセルはIMEを半角英数にしています。半角/全角のキーの押下を少なくしています。

大文字/小文字の制御は、EXCELでできないので「CAPS LOCK」キーを使うといいでしょう。

全世界アワード申請書以外の印刷様式シートで直接データを入力する必要はありません。

データ入力シートのデータが、印刷様式シートに転記されます。

QsoData、Entity、Zone、Continentのデータ入力が終わったらQsoDataシートの「データ処理開始（Ctrl+A）」ボタンをクリックしてください。

VBAマクロが開始し、データの重複チェック、並べ替えなどの処理が実行されます。

QsoDataシートの「OrgCallsignで並べ替え（Shift+Ctrl+S）」ボタンの押下をすると、二重Callsignエラーデータがを見つけやすくなります。

QsoDataシートの「エラーデータの検索（Shift+Ctrl+F）」ボタンの押下をすると、セル位置がエラーデータに位置づけられます。

「データ処理開始」を実行したのち、QSOの件数のエラーがある場合、「OrgCallsignで並べ替え」を実行し、その後「エラーデータの検索」を実行すると、比較的簡単にエラーデータの修正ができるかと思います。

## 2. 全世界アワード申請書

年月日の項目は、“2025/3/31”の形式で入力してください。

申請手数料、楯代は数字のみ入力してください。“/”は入力不要です。

## 3. QsoData

EntityのコードとCallsignを上位の行からデータ入力してください。

入力する順は任意でかまいません。マクロで並べ替えます。

交信年月日、Band、Mode、QSL欄は参考情報です。（Band,Mode特記を希望するなら、それを明確にするためにあったほうが良いだろうと考えです）

ログアプリを利用されているなら、MicrosoftのACCESSやEXCELを用いて、必要なデータを抽出し、コピーでデータ入力シート貼り付ければより簡単にデータ入力できます。

おススメは、Microsoft ACCESSです。SQLの知識が少し必要ですが、Query機能を使用するとデータの条件抽出、ユニークデータの抽出・並べ替え等が簡単・正確に行えます。

貼り付けるデータは、EntityとCallsignです。QSLの欄は、紙カード、eQSLなどの区別に用いればいいで

OrgCallsign欄は、Callsignの重複チェックのために使用しています。

Callsignの重複チェックを行っています。

Callsignが重複している場合は、セルの背景色が黄色になります。

データが準備できたたら、QsoDataシートの「データ処理開始」ボタンをクリックしてください。

最近Callsignの文字数が長いものが増えてきてます。

その場合、印刷様式シートではCallsignの文字サイズが小さくなります。○、△、□のマークも小さくなります。拡張子“xlsm”を“xlsx”に変更して保存すると、マクロが削除されます。これを同時に提出するとよいかもしれません。いずれ、紙ベースで審査するより、EXCELブックで審査するほうが審査効率がよくなるはずです。

Entity、Callsignのデータを予備を含めて最低10,000件以上を入力する必要があります。

データは、必ずしもEntity、Callsign順に並べ替えておく必要ありません。

例

1S,1S1DX  
↓  
HL,HL5SDX  
↓  
JA,JA1AA  
↓  
K,K1JA  
↓  
K,W1AW  
↓  
ZS,ZS1SDX

マクロで、Entity、Callsign順に並べ替えます。

データの修正が必要な場合は、直接直してください。

削除したい場合は、Entity、Callsignを空白にしてください。

新たなデータを追加したい場合は、最終行に追加してください。

その後、「データ処理開始」ボタンのクリックでデータの入れ替え・並べ替えを行います。

JARLの10,000局賞のアワード規約では、かつてのUS Callbookの順で並べ変えるよう指定していますが、そのような並べ替えは、不可能でありませんが大変難しいです。

Prefixの数字部分が“2025”のように長いものについては、どのように並べればいいのか不明です。

JARLの確認を得て、単純に内部コード順にしています。

#### ・ACCESSを利用する場合

SQLでは、“SELECT First(Log.Callsign) AS Callsignの先頭, First(Log.Entity) AS Entityの先頭  
FROM Log ORDER BY First(Log.Entity), First(Log.Callsign);” のようにすればデータ抽出できるでしょ

#### ・EXCELを利用する場合は

Callsignで並べ替え後、前行と現在行の値を比較し、マッチするかどうかでマーキングし、そのマーキングでフィルタを利用するとデータを抽出することができます。

印刷タイトル機能を使用していますのでページ番号、データ数/ページを印刷できません。

ページ番号、データ数/ページは、手書きしてください。

印刷プレビューで確認してください。

規定で「交信無効期間のあるエンティティの局は、記入欄に交信年月日を明記すること。」となっていますが、印刷タイトル機能を使用しているため記入欄にデータ入力できません。手書きしてください。

## 4. Entity

QSOデータの作成方法と基本的に同じです。

コールサイン,交信年月日 (Date),周波数帯 (Band),電波型式 (Mode),Entity,Entity Name,備考 (QTH等)のデータを200件以上準備する。

ARRLエンティティリストには、200件目までのデータが転記されます。

データを削除するには、Entityから備考madeの項目のデータ削除をしてください。

このデータは、コールサインの重複チェックを行っていません。目視で確認してください。

Entity Nameは、ログデータとして持っていない場合にはVLOOKUP関数を利用して参照すればよいでしょう。参考資料にEntityのコードとEntityの名前のデータを準備しています。

備考 (QTH等)を入力する意味は、同じPrefixで別なEntityを区別するためでしょうか？

例えば、Prefixが3D2の場合に、FijiかConway reefかRotuma I.かを区別するためのためでしょうか。

QSLカードにEntityが明記されている場合も必要なのかJARLに聞いてみたいものです。

備考(QTH等)は、手入力するしか方法がないでしょう。

## 5. ITU Zone

QSOデータの作成方法と基本的に同じです。

ITU Zone,コールサイン,交信年月日 (Date),周波数帯 (Band),電波型式 (Mode),Entity,Entity Name,備考 (QTH等)のデータを70件以上を準備します。

ITU Zoneのデータをログデータに持っているログアプリは少ないと思います。その場合は何らかの方法でITU Zoneごとのデータを作成しなければならないでしょう。

Entity同様、備考 (QTH等) が要求されています。同一Entityで複数のITU Zoneのものがあります。

旧ソ連の局についてOBLASTでもよいようだが、USAはZip codeで代用できるだろうか？

## 6. Continent

データの件数が少ないので、直接入力してもよいでしょう。

Entity,ITU Zone,Continentに記載したCallsignがQsoDataにない場合は、背景色が黄色になりますので、背景色 黄色のデータを修正してください。

国内局を含めないでEntity、ITU Zone、Continentの条件を満足しない場合は、国内局を1件ずつ追加する必要があります。

ここでの国内局は、JA、JD1、JD1/Mです。8J1RL（昭和基地）は、国内局扱いです。

できれば国内局を入れずに条件を満足できればよいでしょう。

JA、JD1のITU Zoneは45、JD1/Mのそれは本来は90ですが、45にするというルールがあります。

## 7. Turbo HAMLOG/Winユーザのために

HAMLOGのCODEでは「エンティティをプリフィックスのアルファベット順に並べる」ことができません。CODEをプリフィックスに変換するための、テーブルを参考資料に用意しています。

VLOOKUP、XLOOKUP関数を利用してデータ変換をしてください。

又、ITU Zoneの管理は、各ユーザに任されていて、一意な方法はありません。

1つのEntityが一つのITU Zoneになる場合だけEntityからITU Zoneに変換可能です。

VLOOKUP、XLOOKUP関数を利用してデータ変換をしてください。

1つのEntityが複数のITU Zoneになる場合は手作業によってデータ修正してください。

**不具合な箇所、新たなアイデアがありましたらお知らせください。できる限り改善したいと思います。**

**このマクロを使用したによる不具合が発生しても責任は持てません。**